

No. 9

1987

4月1日発行

萩の郷

発 行 者
下 市 田 区

発行責任者
下 井 武 平

印 刷
キタバヤシ印刷



萩山の春の祭りの

めぐり来て

おはやし聞けば

老は若やぐ

(詠進歌より)

今年の萩山神社の春祭りが去る二十九日(日)に盛大に開催された。

当日は朝からの曇り空で雨も大へん心配されたが幸運にも雨にもあわず、獅子屋台、獅子舞の奉納が区民の見まもる中を賑かに行なわれ午後五時無事終了した。

最近の下市田の情勢について

代議員・各委員会の委員および公民館三役・各部長の任期満了による改選が行なわれました。

退職された皆様大変ご苦勞様でした。また再任および新任の皆様今後二年間区のため分館のためによりしくお願い申し上げます。

工事関係では一一一号線(一一二号が改称)が一部買収の運びとなり竜西線、一・三線、羽根坂線が着工となり、国道一五三号線の農協下市田店東のガードが拡布されることになり工事中であります。

中学校・役場付近および市場の悪排水路工事、北の原の貯水池および各地区の小河川の改修工事が完成しました。関係皆様のご協力にお礼申し上げます。

裁判の件は去る十二月二日と三月十九日に証人尋問と審理が行なわれましたがそれぞれ言い分がありますので、決審の時期は予測できません。

工業団地につきましては旭松が操業し綿半が建築工事中ですが、その後飯田車

両整備組合・綿藤・北星ハウス・外松・マツザワ・板国・小林工業の進出が決定、総面積で約六町五反となりました。その他に森林組合の南の地区を町の要望により公共用地として買収することになりました。

なお水田農業確立対策事業の一環として二町歩十町歩の小規模土地改良事業が行なわれることになり数カ所の候補地の話し合いが進められています。下市田地区の将来のため関係皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

二年間代議員を務めるにあたり

昭和六十二年と六十三年の二年間、次の十五名が、区の代議員を務めさせて頂くことになりました。

各人それぞれの仕事を持つて居りますが、お引受けした以上、一致協力して、任務遂行に努力してまいりますので、区民皆様のご協力をお願い致します。

(順不同)

昭和62年度 下市田区一般会計歳入歳出予算

1. 収入の部

62. 3. 26代議員会議決

区 分	本年度 予算額	前年度 予算額	比 較	説 明
1. 区 費	9,000 ^{千円}	8,900 ^{千円}	100 ^{千円}	個人・法人区費
2. 繰 入 金	8,700	11,320	△ 2,620	地域振興基金利子
3. 町 支 出 金	3,800	2,223	1,577	各種事業補助金その他
4. 財 産 収 入	1,000	1,000	0	貸地料その他
5. 寄 付 金	2,600	500	2,100	各種事業地元負担金その他
6. 繰 越 金	500	500	0	前年度繰越金
7. 諸 収 入	1,600	800	800	山作業出不足その他
合 計	27,200	25,243	1,957	

2. 支出の部

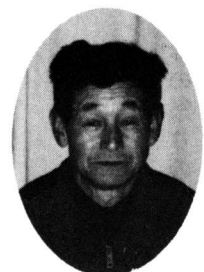
区 分	本年度 予算額	前年度 予算額	比 較	説 明
1. 総 務 費	10,839 ^{千円}	11,771 ^{千円}	— 932 ^{千円}	
2. 厚 生 費	587	683	— 96	
3. 区 有 地 費	1,490	1,390	100	
4. 土 木 費	6,920	4,632	2,288	
5. 水 利 費	2,405	2,605	— 200	
6. 消 防 費	978	978	0	
7. 公 民 館 費	2,570	2,384	186	別途会計
8. 予 備 費	1,411	800	611	
合 計	27,200	25,243	1,957	



会 長
小林 恵



副会長
上沼 政夫



今川 芳章

引続き公民館業務を 担当するにあたり

公民館長 原 次 郎



計らずも私達三名は二年間下市田公民館役員として業務を担当させていただくことになりました。

正副館長は前期に引続いてでございますので初心に帰り一生懸命やってみる覚悟でございますので区民みなさんの絶大のご協力をお願いいたします。

さて最近の社会は経済的には大へん豊かになり所得はドルベースで世界第一位となりましたが反面心の貧困荒廃が叫ばれています。また個人的には多様化、個性化の時代に入り若い世代は積極的に選択の自由を謳歌しそれとともに一般的に自己中心的考えとなり地域共同体意識が大へん薄れてきています。

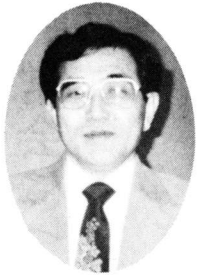
このような中で公民館は活動の原点に帰り「時代に即応した人間形成即ち体力健康の増進と個人の資質の

向上」は当然ですが現在求められている「地域の個人とのつながり、ふれあいをよくする」ことが大切であると思います。

現在は管理社会で各職域等の縦系は強くなっておりますが、地域で生活をしていくうえで大事な横系が弱いのが現状です。

下市田公民館としまして「地域での心のふれあいの造成」を大きな目標として参りたいと存じております。

また下市田区は組織で大へん大きく公民館の今後のあるべき組織体形につきましてもいろいろご意見をいただきながら検討改善していかなければならない時期に來ていると思いますので、この面でもみなさんのご意見ご協力をお願いしごあいさついたします。



副館長
唐 沢 武 文



主 事
朝 比 哲 子



高 橋 武 市



勝 又 庄 作



宮 沢 務



富 田 隆 仁



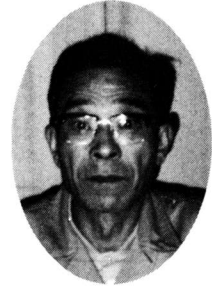
小 平 和 昭



手 塚 春 一



田 戸 純 市



林 喜 代 重



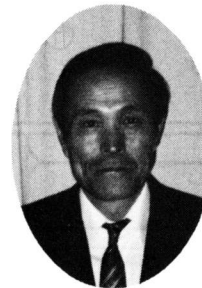
仲 平 里 司



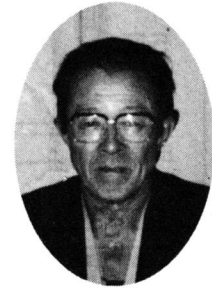
大 島 修 一



唐 沢 今 朝 男



林 重 利



倉 沢 光 英

三 区 萩 山 神 社
氏 子 総 代 交 替



下市田の区、常会について (三)

田戸純市

三 区

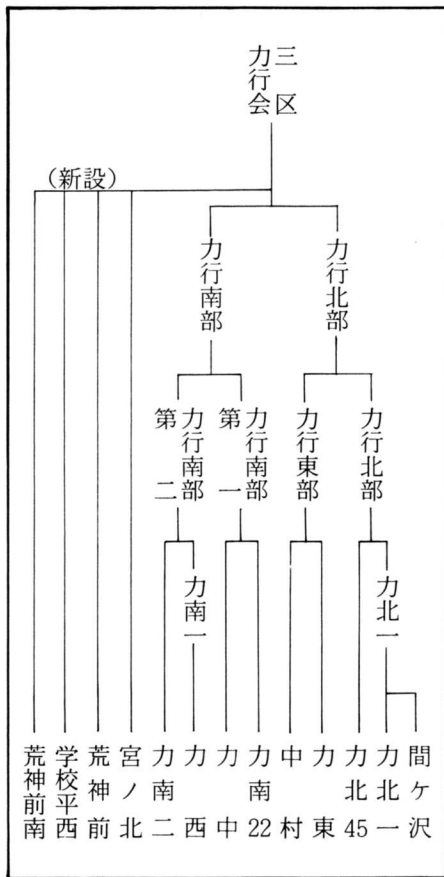
三区は上段の方は上市田、北は一区、東は二区、西は四区、南は五区に境して囲まれた中心的位置にある。前にも書いたが、三区は力行会でも常会に力の字が付いているのが多い。戦前は力行北部と力行南部の二つに別れていた。

戦後、三六災など機にして常会の分割が細かく行われ、新しく転入居住の方が増え、新設常会が誕生した。昭和二十年前半まで、隣組が下市田に四十五あった。下が現在の常会名である。

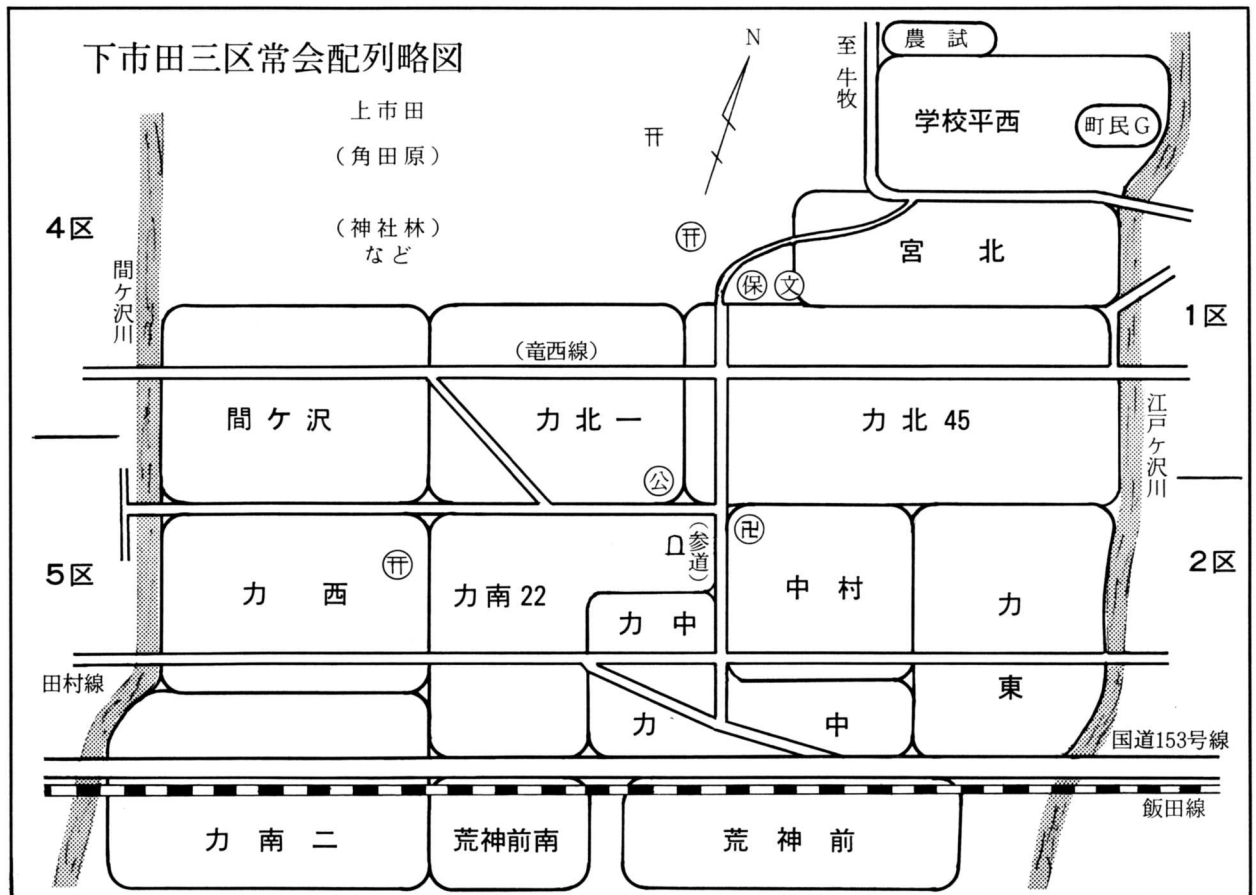
それで宮本である三区から一番で始まって、又最後四区、十五番が三区にあるので、力北一、力北45と云う常会名が付いているのである。力南22もまたそれと同じ訳である。三六災のあとに荒神前、お宮の北、寺山地区に団地が出来て、今の荒神前は共に現在の所へ移ってしまつた。交通、経済の力はその地域の変容に大きく作用するもので、今昔の感

入である。次へ三区の常会の配列図を掲げて参考にする。

次へ三区の常会の配列図を掲げて参考にする。



下市田三区常会配列略図



私とゴルフ

寺沢久義(二区)

ゴルフ、何と素晴らし
いスポーツでしょう。高原
の緑の芝生におおわれた広
大なコースで、ボールを打
ち、ボールを追う楽しさは
日頃のストレスを解消させ
新たな活力を、よみがえら
せてくれます。

時代が進むにつ
れて自然に親しむ
機会は少なくなっ
て来ています。ゴ
ルフは自然を生か
した緑地で、老若
男女と一緒に楽し
めるスポーツです。運動能
力や体力に差があっても、
技術や経験に違いがあつて
も、ハンディキャップシス
テムによって公平に競えま
す。

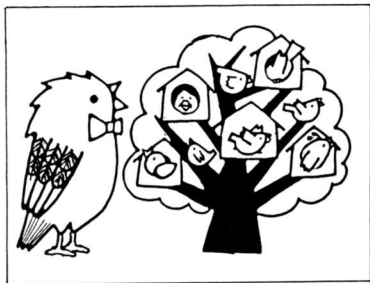
私は下市田一番です

楽しい大家族

小池亀男(二区)

原稿を依頼され
た時は、はい。な
んて引き受けてしまつたも
の、いざ書く時になつて
何を書くかかと、こまつて
しまいました。お引き受け
した以上何か書かなくては
とペンを持った次第です。

まず家族の紹介からいき
たいと思います。祖父、祖
母、私、妻、長女、次女、
三女、四女、長男と九人で
生活をしております。むか



しなら子供の五、六人はあ
たりまえにいた事だったと



年に二回か三回でしたが、
年を増すごとに回数が増え
て来たようです。かれこれ
九年になります。その間遠
くは沖繩、そして九州でプ
レーしたことも有ります。

時にはくやしい事も、又う
れしい時もありました。

一日に七Km余歩くのです
から疲れますが、仕事の事
を忘れボールを追って夢中
です。たまたま六十年代は
クラブ選手権予選に参加し

思います。まだ子供の小さ
い頃は手がかり、大きく
なるにつれて口ごたえをす
る様になり、色々とうるさ
くなってきました。食事とも
なれば九人で座るには、台
が二台もなければ座る事が
出来ませんでした。御飯も
一日に二升もたいて、たり
ない事もありました。一人
だいて食べさせていると、
私もと二人ヒザに入れて食
べた事もありました。食事
の時など子供達が終らない
と食べた気がしませんでし

て予選を通過出来、一回戦
を勝ち二回戦も勝って準決
勝。これも思わぬ勝ち進み
さて決勝戦。決勝戦はあつ
さり負けました。でも準優
勝と云う偉業で思つてもみ
ない成績にあきれています。

その時の雰囲気や体調に
左右されるスポーツだと対
戦者を見て感じ、反省もし
ているところです。

この様な機会は誰もが得
られるわけです。

ゴルフ愛好者の皆さんお
おいに楽しみましょう。又
これから始められる方々、
下市田ゴルフ愛好会が有り
年数回のコンペを行なって
います。ふるって参加を希
望いたします。

た。子供達が保育園を終る
までに十一年間かかりまし
た。五人それぞれ性格がち
がい、保育園の頃の色々の
思い出が多くあります。運
動会の時でした、何でも一
等にならなくては気がすま
ないのが三女でした。二等
になつても自分では一等と
思つていて、いや二等だよ
と言うとなき出してしまい
こまつた事もありました。

又長男の時は、競歩でしつ
かり走らなくてはならない
のに手をふって大回りをし
て走つていて大笑いをしま
した。大家族の為全員が一
緒に出掛ける事が出来ませ
んでした。大供達も大きく
なり二十才を頭に、長男も
六年生となり自分達で物事
が出来る様になりました。



地元出身町議との懇談会開催

教養部

じめ、区
民九十余
名が出席
し、最初

下市田区と下市田公民館
主催の「地元出身町議と語
る会」は、去る二月二十一
日午後三時より、下市田公
民館二階大会議室に於て開
催された。

この会には、各団体代表
者の出席もあり、各々の立
場からの意見も多く、大変
活発な会合となった。

しかし反面、時間の制約
から、充分な発言が出来な
かったとの声も、一部には
聞かれ、今後の会のあり方
を検討する必要を感じた。

当日出された主な要望・
意見は、次の通りである。

- 一、治山治水対策の、早期
実現について
- 二、区内の道水路網の、改
修促進について
- 三、家庭雑排水および尿
処理問題について
- 四、下市田保育園への通園
バスの運行要望について
- 五、下市田旧学校付近(一
一号线)の道路改修に
際し、自然との調和のと
れた開発をされたい。
- 六、催事のポスター等の学
校内掲示について、関係
機関の配慮を望みたい。
- 七、萩山神社参道脇の墓地
移転について、配慮され
たい。

史跡めぐりシリーズ(9)

児島麗斉の墓について

福島 光三郎

墓石に刻まれている。

萩山神社の参道にある一の鳥居の左手に雄渾な行書で、天満宮と刻まれた石碑がある。これは学問の神様である菅原道真を祭ったもので、嘉永三年とあり、側に児島高智門中とある。

この児島と云う人はまたの名を麗斉と云い、その頃下市田間ヶ沢、伊勢屋敷(庭村さんの裏手)で寺小屋の師匠をして居り、慶応三年には市田陣屋の御会釈の者として村の庄屋と同格の扱いを受けて居た。

その寺小屋は以前は、十三塚にあり義父の児島麗淳が文政十年頃から寺小屋を開き村の子弟の教育に当たっていた。

間ヶ沢へ移った頃の筆子は二十名内外の人数であったと思われる。

麗淳は、当村の上洞林権右エ門(現唯介さんの先祖)の娘が別家した際入贅となった人物で、豊かな才能に恵まれ徳の高い人であった。その麗淳の辞世の詩文が

安政の四年に没している。一人の娘を迎えた養子が麗斉であった。この人は子供運が悪く、また妻に先立たれて悲嘆にくれている矢先に、養子としたおかいじ福島造酒弥の二男が年少の頃病死するという悲運に会った。

麗斉は渥美半島の田原藩に仕えていたと云われ、当地に来てから飯田藩の御殿医を勤めたと云う。その関係からか、堀家の家老職の石田平左エ門(仲の町)の娘を後添えとした。この娘は菱田春草の伯母である。

長男の惣治が数えの五才明治三年四月、麗斉は急死してしまつた。同僚のねたみで毒殺されたとも云われた。その前の月三月には長女のはなが生まれている。主人の急死で生計のみち

を絶たれた妻の志賀は、生家の石田家は御維新で既に東京へ移ってしまい、致し方なく親戚をたよって、一先ず泰阜の豪農万場家へ身を寄せることとなった。

長男の惣治を万場家の親戚の先の根羽の石原家に引取ってもらい、長女のはなは万場家の養女とし自分は下家(いまは国の重文となっている)へ嫁いだ。

前のこととなるが、麗淳の没後に筆子一同が墓碑を建てて居る。場所は間ヶ沢の清水庵の西裏である。

墓地としての土地は下古瀬の橋都慎蔵と福島造酒弥が提供した。

墓の芝台は花崗石の平板で横・縦七五センチ、厚さ一五センチある。他の墓地に見られないほど立派なものであった。台石からの碑の高さは一メートル一六センチで、材は質の良い花崗岩で三方が磨かれ正面に麗道宗淳居士、右側に安政四年の文字が見られる。左側に前掲の辞世の詩文があり、門弟中造立之とある。

麗斉の墓も全く同じ型である。

戒名は一方良斉居士
明治三年四月六日となつ

ている。

これらの立派な墓は、麗淳、麗斉の筆子(生徒)たちの師匠への追慕、感謝の気持ちから多大の金子を出し合つて造られたものである。

その中心となった人物はあめや(屋号)上沼正治さんの曾祖父に当る弥蔵の努力が大きかったと云われる。

この墓もその後百年の間無縁仏同様となっていた。ところが、昭和五十七年八月、麗斉の直系の子孫になる根羽村の石原忠正さんが、先祖の墓のあり処をさがし求めて調査に来られ一切のことも判明したわけであつた。ひとまず松源寺で供養ののち数日を経た八月、十日墓石全部を根羽の石原

家の墓地へ移された。三十年に近い年月を親子二代に亘り下市田を中心とした郷村の庶民の子弟の教育に生涯務められた麗淳・麗斉の霊も今は子孫の手厚い供養の下に、根羽の地に眠りつづけていると思われる。



クラブ紹介(9)

下市田第二書道クラブ

北沢 百合(一区)

私達第二書道クラブは五十二年三月公民館のクラブ活動の一つとして誕生致しました。先生は飯田市の小木曾龍夫先生をお願い致しました。上沼正清先生の飯田中時代のお友達とかでご紹介頂きまし

た。大変ご熱心な先生で、棒一から始まつて漢字、かな、変体がな、楷書、行書、



康上の理由等ありまして只今では十名と成つて居ります。六十三年三月小木曾先生が病気に成られておやめになられました。其の後一時中断致して居

りました。六十二年一月から山吹の中平才先生が教えて下さることに成りました。中平先生は、一人一人手を取って丁寧に教えて下さいます。勤勉家で努力家であられる先生の感化を受けまして、部員一同一生懸命勉強致して居ります。先生は今年の二月に文部大臣賞を受賞なさいました。

二月一日には先生とご一緒に部員一同、日展見学に名古屋へ行つて参りました。見学を終えバス乗車までの時間があつたのでタワ一へ昇つたり、大津の観音様をお詣りしたり楽しい一日でございました。

×××

随想

思いつくままに

原 正(四区)

竜西線から間ヶ沢川沿いに急な坂道を上る事約三〇〇米「古瀬砂防ダム」が昨年四年間をかけて竣工しました。高さ一四米、長さ七六米その偉大な姿は実に見事なものです。建設事務所の係官の話によるとこの「ダム」は三六災害の時の水量の二倍は持堪えられるそうです。この「ダム」の完成によって下流住民は安心して生活する事ができます。これも一重に地権者の御理解と各関係機関の皆様の御尽力の賜と深く感謝しております。ところが危険な問題が起きてきました。それは

下市田二区若妻会

北 林 きみ子

私たち下市田二区若妻会は、昭和三十九年四月「ひいらぎ会」として発足しました。そのころは、たいへん活動もさかに行なわれ講師の方をお願いして勉強会なども行なわれたようです。今は、勤めに出ている人が多いため、若妻会本来の活動がいまひとつのとこ

パンツ一つになり水泳を始めたり、「ダム」の上で飛び廻るようになりました。それを見た家内は大声で注意しました。少年達自身もいけない事をしていていると思っていたのでしよう、すぐすごすこと帰って行きました。その後別のグループも度々来て遊んでいます。その都度注意をしては居るのですが、少年達も家には黙って遊びに来ていると思われれます。事故が起きてからでは遅すぎます。子供を持つお父さん、お母さん折にふれ危険な場所では絶対に遊ばないよう、子供と共に語らいの場をもつて下さい。



手芸講習会などの

会合が終わった後にみんな、気楽にお茶を飲みながら悩みを相談したり雑談してとても楽しいひとときを過ごしています。これから地域の若妻会として、がんばっていききたいと思っています。



下市田三区若妻会

酒 井 恵 子

私達若妻会は現在十一名の会員がおります。

発足は手元に古い記録がなく、はっきりわかりませんが、大勢の先輩がいらっしゃることから、だいぶ前になるのではないかと思います。

他のクラブと違い目的が決まっていますので、会の内容は毎回さまざまです。毎年行なっていることは、

新年会・お花見・忘年会などで、他にも料理講習や手芸など行なっています。

農繁期を除き毎月会合を開いています。子供連れになることが多いのもた



いへんにぎやかです。

若妻会という名前とうり、皆二十代から三十代前半といった若いグループです。ので、育児のことなど、お互いに為になることも多く、いつも時間のたつのも忘れ、話がはずみます。

数年前には、先輩方が洗剤についての学習をして下さりたいへん勉強になりました。

これから何かテーマを決め皆で取り組んでいけたらと思います。

このようにとても気楽で楽しい会です。

まだ会員でない三区若妻の皆さん、ぜひ仲間に入りませんか。

詩
春の雨

田 戸 純 市

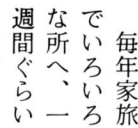
しとしとと音も無く雨柔かくあたたく木肌を濡してしめやかに地面にソツと降りにつけり暗い静かな此の夜は柳の小枝芽ぐむらむさんしゅゆの蕾も黄ばむらむ

椿も紅のくちびるで明日を呼ばむ春呼ばむしとしとと音も無く雨あたたかく降りにつけり雨柔かくしめやかにしとしとと降りにつけり

新編集委員の紹介

下井武平(区 長)	松島重人(副 区 長)	三島 勤(会 計)	小林 恵(代議員会長)	上沼政夫(副会長)	原 次郎(公民館長)	唐沢武文(副館長)	朝比哲子(主 事)	木村隆雄(教養部)	坂牧政直()	三島清美()	棚田富子()	小島俊彦()	岡本紀代()
-----------	-------------	-----------	-------------	-----------	------------	-----------	-----------	-----------	---------	---------	---------	---------	---------

キャンプのおもいで



キャンプに行きます。
キャンプでは、いろいろ
なことがありました。

夕方散歩をしていて、話にむ中になっていたので、防波ていの横の草がいっぱい生えている所へ落ちてしまいました。でもけががなかったのが、さいわいでした。

お父さんは、折れた支柱を手でささえて、お母さんは支柱のかわりになる棒をさがしてきました。この時ばかりは、こわかったです。でも、その棒を折れた所にしかりつけると、やっとおちつきました。そこは、せみがいっぱいいて、ぼくでもかん単にとれました。

「入試」について真剣に考えたのは、三年生も残り少なくなつてからで、両親や囲りが騒いでいるのに自分の事として捕えられず、

「いたいなあ。」

くしもとへ行つた時は、熱帯魚がいっぱいいて、それをつつて食べました。とてもおいしかったです。エサを付けて糸を海に入れると、すぐつれてきました。

佐渡へ行った時は、とう
台のすぐ近くにテントを張
りました。夜中に台風がお
そつてきて、テントの支柱
が折れてしまいました。三
人とも大あわてで、ぼくと

今村克守(六区)

ぼくは、剣道にはいって
りました。

いる。ぼくは朝早く一人で歩いて行きます。特につらいのは、冬です。空からは雪が降ってきて寒いし、それに、道は、真っ暗です。でもぼくは、これも一つの剣道をする所は、中学校の体育館です。ストロブー

つも無い寒い館内でやると思うと、「やだなー」とも思いうけれど、しなければなら

ないからやります。

練習だと思い歩いていきま
はじめにやることは、す
す。それでも時々いやにな
ぶりで。すぶりをやって
り、ずる休みすることもあり
ると、足がつめたくて、

小島 阿貴子(五区)

マンガやピアノが楽しい毎日でした。三年生になって八回の学力テストがあり、志望校の最終決定時期である六回目が終わった所で、

「両親の心配事」の本当の意味に気付いたのに、今更頑張つて、残り少ないテストで良い点を取つても、という気持ちになり、憂うつでしたが、三年間の総仕上げのつもりで、正月少し前から復習を開始。最終テストの頃、ようやく受験勉強のやり方が判つてきたような気がして、総復習に熱が

せてもらえ、すっきりした気分です。入試の日を迎えました。毎日の勉強の積み重ねが、いかに大切か「一夜づけ」では、どこかで「化けの皮」が剥けるのではないかと、という心配が、私の心の中ほとんどを占めつつあり、合格発表が気掛りでありませんでした。

×× ××

×
 ×
 ×
 ×

春祭りも終り桜の花も
間近い季節となりました。
新年度に入り各々新し
い目標に向っての躍動が
始っています。

対応が迫られています。

区報も第九号となり今後二カ年間紹介しました編集委員のメンバーでやっております。どうか区内のコミュニティ情報紙としてお気軽にみなさんの投稿をお待ちしています。

(原 次郎)

(原 次郎)

